みどりを育む
横造協だより

発　行　Vol.28
社団法人　横浜市造園協会
広報委員会
横浜市中区尾上町1−6　住友生命横浜関内ビル７階
TEL 045−662−9897　FAX 045−664−5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

緑豊かなまち横浜を次世代へ

横浜市副市長　**鈴木　伸哉**

はじめに

横浜市造園協会の皆様には、日頃から、公園の整備や、指定管理をはじめとする維持管理、「横浜みどりアップ計画」におけるいき

みどりアップ広報事業
（横浜F・マリノスのトリコロールランドでのPR）

樹林地の保全
（大丸山近郊緑地特別保全地区）

いき街路樹事業など、様々な場面で、本市の緑をつくり、育てることに御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

今年の春に開催された「花と緑のスプリングフェア」では、今年で50回を迎えた花壇展を中心に多大な御尽力をいただき、無事、開催することができました。誠にありがとうございます。

横浜は、市街地の中に緑が残り、生活に身近なところで緑を感じられる街です。私自身、休日には自宅で、バラをはじめとする庭づくりを行うなど、花と緑に親しむとともに、その大切さを日々実感しております。

今年は、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012 などを通じて、多くのお客様を横浜にお迎えしており、魅力ある緑の街並みを感じていただいていると思います。この賑わいのある、緑豊かな横浜を、さらに多くの方に実感していただけるよう努めていくとともに、横浜の取組を広く発信していきたいと思います。

横浜みどりアップ計画
（新規・拡充施策）
豊かな緑の実感と取組の継続

横浜市は、平成21年度から、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」を３つの柱として、横浜みどり税を財源として活用し、「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」に取り組んできました。

「樹林地を守る」施策では、保全制度の指定を積極的に進めており、23年度末までに約３１０haの新規指定を行っています。特に、市街化区域での指定が大きく進み、市民の皆様に身近な場所での樹林地の保全を進めることができました。また、樹林地の特性に応じた保全管理計画の策定が進み、市民協働による維持管理を推進しております。

「農地を守る」施策では、水田の保全契約が大きく進み、23年度末までに約１１０haの水田の保全が図られています。また、農家の経営改善の支援などを行うことで、市内産農産物の生産供給が進んだほか、新規の農地貸借が進み、農地の保全が図られています。

「緑をつくる」施策では、地域ぐるみでの緑化計画づくりが進み、23年度末までに、12地区で活動に取り組んでいます。計画に基づく緑化を進めることで、地域ならではの緑のまちづくりや、緑をテーマとした地域コミュニティ活動が盛んになりました。また、園庭や校庭の芝生化を進めることで、子どもたちが緑に触れる機会を増やしています。

「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」は、平成21年度から25年度の５か年の計画の４年目を迎えています。横浜みどり税を安定した財源として活用することで、取組は大きく進んでおり、これらの成果を市民の皆様により一層実感していただけるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。

緑の保全・創造は長期間、継続的な視点で取り組むべきものと考えております。26年度以降の緑施策につきましては、現計画の成果を継続して検証し、市民の皆様や環境創造審議会、市会での御意見をいただきながら、計画の素案をまとめてまいります。

公園の整備
身近な公園から大規模な公園まで

市民の皆様にとって身近な公園は、潤いと安らぎを与えるだけでなく、子どもの遊び場、地域コミュニティの形成、健康づくり、自然体験の場としても重要な場所です。さらに、公園は災害時の避難場所や救助活動の拠点として、防災の面で大切な役割を持つ施設であることが、昨年３月の震災で再認識されました。

公園を安全で快適に利用していただけるよう、老朽化した施設の改修を進めるとともに、地域の御要望を踏まえながら、既存の公園の再整備や改良を行っています。また、大規模な公園や都心部の公園など、魅力ある公園の計画的な整備を進めています。

今年度は、４月にアメリカ山公園が全面オープンし、多くの方に御利用いただいています。７月には、市内最大の運動公園である新横浜公園に、サッカーボールをモチーフにした複合遊具のある遊具広場がオープンしました。（仮称）旧住友邸庭園などでは引き続き整備を行い、特色ある公園づくりを進めております。また、よこはま動物園ズーラシアにおいては、「アフリカサバンナゾーン」の整備を進め、動物園の早期完成を目指します。

（仮称）旧住友邸庭園

新横浜公園　遊具広場

おわりに

横浜は、街なかにつくられた緑や、郊外部に残された緑など、市民生活の中に緑が溶け込んでいます。本市ではこれまで、「横浜市水と緑の基本計画」に基づき、横浜らしい水・緑環境の実現に向け、「横浜みどりアップ計画」をはじめとする総合的な取組を推進してまいりました。今後は、継続した取組が必要であるとともに、保全・創出した緑をいかに良好に保ち、街の魅力として活かしていくかが課題となります。また、東日本大震災の発生を踏まえた取組や、平成23年に策定した生物多様性横浜行動計画「ヨコハマbプラン」に基づく取組など、社会情勢を踏まえた施策の展開も求められています。

これらの状況に対応し、「緑豊かなまち横浜」を次世代へ引き継いでいくため、幅広い視点から、緑の保全・創造に総合的に取り組んでまいります。

横浜市造園協会の皆様には、長年培われてきた知恵と技術を結集していただき、緑の保全・創造や安全で快適な公園づくりなど、市民の皆様の身近な緑を守り育てる取組に御理解、御協力をいただくとともに、御一緒に取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

略歴
昭和53年3月　東京大学工学部卒業
昭和53年4月　横浜市入庁
平成20年4月　都市整備局横浜駅周辺等担当理事
平成22年4月　建築局長
平成24年4月　横浜市副市長

横浜市造園協会
第34回通常総会を開催

5月29日ホテル横浜ガーデンにおいて第34回通常総会を開催した。

左記議案について審議しいずれも原案通りに承認された。

議案審議

第1号議案
平成23年度事業報告（案）の承認について

第2号議案
平成23年度決算報告（案）の承認について

第3号議案
一般社団法人移行に伴う定款変更（案）の承認について

総会終了後、ご来賓をお迎えして「ハマの緑を育むつどい」を開催した。

業界の疲弊回復に施策を

会長　生駒　隆一

本日は大変お忙しい中ハマの緑を育むつどいに林市長様をはじめ多くの市幹部、自民党市連の先生方にご臨席いただきまして誠にありがとうございます。

社会環境や経済情勢が大変厳しい状況の折、協会活動が出来ます事は皆様方のご尽力のお蔭と深く感謝を申し上げます。東日本大震災から1年以上が経過し、被災地の復興計画の策定が進み復興庁の設置、復興予算の確保など復興に向けて着実に動き出しております。しかし一方では、放射能汚染や災害廃棄物処理の遅れなど、多くの課題が山積みしております。本格的な復興にはまだ時間がかかると思われます。

我々造園協会は、横浜市と災害協定を結んでおります。災害が発生した時は素早く対応・行動できるように組織が出来ております。「安全安心な街横浜」を目指して協力を惜しみません。また横浜の公園街路樹など大切な緑を造園協会が、育み守るという信念の元に活動しております。

さて、ここ数年来造園工事業は、公共事業の削減と民事による市場の縮小により依然として厳しい状況下にあります。業界は疲弊しております。早く元気で活気の出る施策をお願いする次第であります。

最後になりますが、本日ご列席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げましてあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

先人の思いを引き継ぐ

横浜市長　林　文子

第34回横浜市造園協会通常総会、「ハマの緑を育むつどい」の開催、おめでとうございます。

◇

私は先月、ワシントンで行われた、日米桜交流100周年の祝賀行事に参加してまいりました。100年前に日本から贈られた原木の遺伝子を継ぐもの以外の桜は一切植えていないと伺い、現地の方々のケアに、感銘を受けました。100年前に、高峰譲吉さん、エライザ・シドモアさんをはじめとする方々が尽力され、日本郵船様や横浜植木様がご苦労のうえ、やっと贈り届けた桜。その思いの深さをあらためて感じました。

先日、この100周年の桜が日本に里帰りした記念の植樹式では、100年前に贈られた桜が、色々な方の協力を得て戻って来たことに、歴史を感じるとともに、私達、都市を守る者が、横浜を子どもたちに引き継いでいくうえでは、そういった人々の思いもつなげていくのだということを実感しました。

◇

横浜市造園協会の皆様に開催していただいている花壇展は、山下公園の名物です。横浜公園には毎年10万本以上のチューリップが咲き誇り、今年の春も、大変賑わいました。ありがとうございます。横浜の街は、ともすると人工的な印象がありますが、だからこそ、街の「緑」が非常に重要だと思っています。

私は、横浜市のようなコンパクトな都市に似合う、美しい花壇に彩られた目の覚めるような公園をつくりたいと思っています。横浜の都市としての品格が大切です。

おかげさまで、今年で4年目を迎える「横浜みどりアップ計画」では、これまでの3年間で、横浜公園約50個分相当の樹林地の保全を進めることができました。緑あふれる環境を次世代に引き継いでいくために、どうか引き続き、ご協力をお願いいたします。

◇

私はこれまで、市民の皆様の生活に寄り添い、そして未来を見つめながら、施策に取り組んでまいりました。保育所待機児童数も約10分の1まで減少させ、東日本大震災の教訓を活かした防災対策など、市民の皆様の生活をお守りするための取組を進めてきました。

また、横浜の国際都市としてのプレゼンスを高めるために、芸術アクション事業も進めています。内外からお客様を呼び込み、経済活性化と子どもたちへ託す未来につなげていきます。

皆様にはこれまでもCSRなどを通じてお力添えをいただいていますが、今後もご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

平成24年度

労働安全衛生大会を開催

7月13日ホテル横浜ガーデンにおいて横浜南労働基準監督署長、横浜市環境創造局長はじめ道路局幹部の方々、各区土木事務所長をご来賓にお迎えして「平成24年度労働安全衛生大会」を開催した。

本年度も労働災害ゼロを目指して安全標語入選者表彰、安全宣言を行い、片寄基準監督署長に「造園業における作業の安全対策について」ご講演をいただいた。

安全標語　講評

最優秀賞に選ばれた田口園芸株式会社早坂尚生さんの標語は、再度安全の基本に立ち返り、日常の安全ミーティングの中で、唱和される安全重点事項と共に確認しやすい安全標語となっている。

また、優秀賞の標語は、一人ひとりが、安全に対して意識を深め、災害を防いでゆこうという内容が評価された。

この標語と共に一年間労働安全衛生活動を推進することをお願いしたい。

《最優秀賞》

安全は　日々の努力と　積み重ね　するなさせるな危険作業
田口園芸㈱　早坂　尚生

《優秀賞》

安全は全てにおいて最優先　みんなで摘み取る危険な芽
㈱港南植木ガーデン　梅田　真吉

安全は一人一人の心がけ　一人のヒヤリはみんなのヒヤリ
みんなで目指そう無災害
㈱田澤園　福尾　亮太

安全確認　危険予知　ゼロ災害は一人一人の意識から
日光緑化建設㈱　池田　英明

安全は目配り　気配り　思いやり　絆で結ぶ無事故の輪
冨士造園㈱　長谷川つるみ

委託安全パトロールを実施

・実施日時
8月29日（水）
・点検重点事項
現場責任者の常駐・熱中症対策・安全管理を最重点項目とする。
・パトロール箇所
産業道路　中央分離帯機械
・草刈り作業
師岡町公園　民地境越境枝
・剪定作業
白根公園　法面機械草刈り作業
境木ふれあいの樹林　支障枝除去作業

●総　評●

公園緑地等維持業務共通仕様書の一部改訂により、現場責任者の常駐が義務付けられた。四現場とも現場責任者が常駐し、細かな近隣住民対応や、熱中症対策として適時な水分補給や休憩を取っている等、今回の委託安全パトロールを実施して、良好な成果が出ていると確信した。

協会員各社が、労働災害ゼロを目指していくことを切に希望する。

造園と言う仕事に携わるようになる前、街路樹というものを意識して観察したことは無いかもしれない。今考えると単に興味が無かったというだけでなく、街路樹が『あって当たり前』だった。春には桜が咲き、夏には日陰を作り、秋にはイチョウが黄色になり、冬には落葉して日向を作ってくれる、そんな四季の街路樹を当たり前と思える事はある意味幸せな事なのであろう。他都市には街路樹の無い幹線道路もあるようで想像しただけでも殺風景で冷たい感じがする。『あって当たり前』の街路樹にも歴史や役割があり、違和感の無い当たり前を維持していくための活動などを少しだけ紹介したいと思います。

（広報委員K）

『近代街路樹発祥の地』横浜

馬車道通りと尾上町通りの交差点近くには『近代街路樹発祥の地』という記念碑が立てられています。

記念碑の裏には、『街路樹は、近代に入ってから、人口過密な都市の景観的魅力を向上させる為に発達したものであり、参道並木、街道並木など、いわゆる地方並木とは区別されている。日本における街路樹は、明治以降、欧米都市の影響を受け、樹種の選択、植栽手入法の改良などによって、著しく進歩、普及した。

１８６７年（慶応３年）開港場横浜の馬車道では、各々の商店が競って柳と松を連植した。これが日本での近代的な街路樹の先駆となった。１８７２年（明治５年）になって、馬車道に日本最初のガス灯が点火されると、この街路樹はさらに美しく映え、夜の涼を楽しむ人々で賑わった。』と書かれています。

碑の写真

景観形成

当時、街路樹の第一目的は景観的魅力を向上させることでしたが、現代では次のような様々な目的で街路樹の植栽が行われています。

都市の建築物や道路は、アスファルトやコンクリートのため、無機的な景観になってしまう。そこで、緑を植栽することによって、生命感を与え、都市景観に潤いを与える。列状に植栽された街路樹は、空間に輪郭を与え、連続感や統一感が高められる。

公害対策

交通量の多い道路では、自動車からの排気ガスのため大気中の二酸化炭素や二酸化窒素の濃度が高い。そこで、街路樹は、ガス状汚染物質の吸収とダスト状汚染物質の吸着によって大気を浄化し、自動車の排気ガスによる大気汚染の影響を緩和する。また、埃を防止し、自動車の排気、工場の煙等も浄化する。

交通対策

街路樹を、歩道と車道の間に、植栽することによって、自動車運転者にその道路の地形、線形などの状況をわかりやすくし、事故を未然に防ぐ効果がある。もし事故が起こった場合には、自動車が歩道に突入することを防ぐ効果もあり、歩行者の安全確保に繋がっている。街路樹を植栽することは、沿道住民の生活保全のために、道路からの騒音を吸収したり、遮ったりする効果もある。

日本大通（横浜市緑の協会　提供）

気象緩和

街路樹を植栽することで、歩道に日陰が作り出される。また、葉からの水分蒸発により、気温の上昇を緩和する。気温上昇に伴い、アスファルトの表面温度は上昇するが、街路樹の作り出す日陰のアスファルトの表面は、温度上昇が少ない。また、蒸散作用により、湿度を適度に保つ働きを持つ。

生態的維持

街路樹は、生物に活動の場を与える。特に、鳥類と昆虫の活動の場を提供する。それらの動物の移動の際に、街路樹が、他の緑と緑を結び、エコロジカル・コリドー（生態的回廊）として、機能する。

心理的効果

コンクリートの建物や、アスファルトの道路などの人工物で作られた都市に、樹木は、その人工的な景観を和らげ、潤いある景観を作り出す。

これにより、人々に安らぎを与える。また、街路樹は、生命の営みや季節の移り変わりを人々に気づかせてくれる。

街路樹で美しい街並みに

このように様々な目的で植えられた街路樹ですが、実際に地域住民はどのように感じているかを把握するため、今春に行われたスプリングフェアー来場者を対象に街路樹についてのアンケートを行いました。

アンケート結果を見てると、街並みが美しくなるという回答が一番多く、続いて木陰で涼しくなる、癒されるという回答を多くいただきました。

街路樹が地域住民に与える影響の大きさを再認識するとともに、街路樹の様々な目的を果たしながら、景観や緑陰を確保できる維持管理が必要だと実感します。

また、街路樹は公園や自然の状態の樹木に比べ、狭い植栽スペースに植えられることが多く、上は電線、下は地下埋設物等により、樹木が育成できる範囲が限られていて、街路樹の育成条件は非常に厳しくなっていると言えるでしょう。

樹木は生き物 長いスパンで維持管理の態勢を!!

いきいき街路樹事業スタート

街路樹の維持管理は、このような街路樹としての目的や育成条件を踏まえ、剪定方法・最終樹形等を考慮しながら維持管理を行っていかなければならないと思います。

そのような観点から『いきいき街路樹事業』が始まり、３年間という長いスパンで街路樹剪定士の指導の下、目標樹形に近づけていくという取り組みが行われています。

都市の美観の向上と街路樹の健全な育成を図るという取り組みです。

目標とする樹形の維持が大切

樹木は生き物です、根から栄養を吸収し枝の先へその養分を送っています。根が大きく張っている樹木は、その分栄養の吸収量も多く、それに見合った大きさへ成長していきます。

栄養の吸収量と成長に使用する養分のバランスによって健全な状態を保っている樹木に対して、樹形を小さくするために太い枝を一度に沢山切ってしまえば、根からの栄養吸収と成長に使用する養分のバランスが崩れてしまいます。その結果、樹木が養分を使い切れずに枯れてしまったり、養分を使い切ろうと枝が異様に増えたり、樹形が崩れる原因になってしまいます。

街路樹全体を見れば同じ樹木が並んでいるように見えますが、それぞれ枝の本数や太さが違う樹木を良好で美しい状態の街路樹にするためには、これから成長させる枝、これ以上成長させない枝、次の年には入れ替える枝等、数年後の樹形を見越した剪定が必要であり、剪定する人のセンスによるところが大きいのも事実です。

ですから目標とする樹形にしていくためには、同じ最終樹形のイメージを持った者が、長いスパンで維持管理を行わなければいけないのです。

いきいき街路樹事業は本年度で３年目。

その地域、その路線の街路樹としての目的を果たし、景観や緑陰の確保が出来るような、当初目標とした最終樹形になったでしょうか？

現行の入札制度では単年度契約のため、毎年施工業者が変わってしまいます。そして、各土木事務所の担当者も変わってしまうことがあります。

そのような環境の中で初年度から３年間、同じ目標を持って街路樹を管理していくことはとても難しいことですが、施工業者と土木事務所及び関係各所が協力をし、また、協会として入札制度の改善や、いきいき街路樹事業の拡充等を関係各所に要望することで『近代街路樹発祥の地』は横浜にあるのだ、と胸を張って言えるような美しく統一感のある街並みを演出できる、そんな街路樹を目指していきたいと思います。

樹木に魅せられて（第23回）

樹木によって命が吹き込まれる空間

横浜市環境創造局
公園緑地整備課
藤田 亜矢子

なぜか日本庭園に惹かれて造園学科へ

高校3年のある日、現代文の教科書で日本庭園の魅力に触れた関係から、授業で紹介された桂離宮の写真集を見た時、なぜか「これだ…」と思った私は、造園学科というそれまでの選択肢には全くない進路を選んでしまいました。

そして庭園から公園へと興味は移り、晴れて横浜市の職員となって最初の職場は「総務部企画課」。市の総合計画を策定するという、新人にはあまりにも重い仕事内容でしたが、浅いながらも広く局内外の業務内容を学びつつ、『仕事はまずは人と人との関係』ということを知りました。

公園の計画 ～横浜市の公園を知る～

その後、公園部計画課へ移動し、今度こそは「公園」にどっぷりはまることができる…はずでしたが、全市的な公園緑地の配置計画や統計調査、広報など、またもや広く浅い「市全体の公園」に関する業務でした。

しかし、市職員になるまで横浜には縁もゆかりもなかった私が横浜市の地理や地勢を知り、市内の公園緑地の配置や特性を学ぶことが出来た貴重な時間でした。

また、全国の自治体の公園関係部署との情報交流に携る機会もあり、他都市との会議で横浜の魅力ある公園を紹介する経験などをさせていただき、横浜に対する「地元愛（?）」が少しずつ芽生えていきました。

公園の建設 ～動物園をつくる～

関内の本庁に5年、「そろそろ現場で公園の建設に係わりたい！」と考えていた私の次の職場は「都筑自然公園建設事務所」。現在のよこはま動物園ズーラシアの建設に携わる仕事でした。

当然、工事の仕事は全く初めてで、チンプンカンプンな現場特有の語句ばかり…。

それでも、何もなかった空き地に少しずつ物が完成していく過程はワクワクするほど楽しく、毎日現場へ出かけては代理人さんと相談しながら一つ一つ仕上げていくという、工事の魅力にすっかりはまってしまいました。

特に、最終仕上げとなる植栽工事は、造園業者さんの腕の見せ所で、樹木の一本一本を選び抜き、向きを考え、将来の生長まで見据えながら見せ場を演出します。すると、構造物だけの無機質な空間にどんどん命が吹き込まれていく…そんな様子を目の当たりにする時が「造園」に係わって良かった（!）と思える瞬間でした。

よこはま動物園ズーラシア（25年春オープン予定エリア）

公園の管理 ～一緒に育てる～

その後、出産・育児休業を経て、初めての管理の職場、北部公園緑地事務所へ異動しました。主な担当は神奈川区の大規模な公園緑地でしたが、大物が三ツ沢公園でした。

特に球技場と陸上競技場の天然芝の管理には、利用調整も含めて四苦八苦し、作業班の人たちに支えられて、どうにかやってこられました。

また、運動公園である三ツ沢公園には他にもテニスコートや野球場、馬術練習場、運動広場など多数の施設があり、遊具や花壇、トイレ、ベンチも沢山あります。毎日どこかしらの施設が壊れ、修繕作業をお願いし…という目が回るような忙しさでした。

そんな中、園内の花壇で年に2回開催する市民参加の花植えイベント。準備は大変でしたが、公園利用者と直接コミュニケーションを図ることの出来る大切な時間でした。毎回楽しみに参加してくれる人もいて、子供からお年寄りまで、和気あいあいと花苗やチューリップの球根を植えます。そうした花壇は完成後も皆さんに愛され、雑草や花ガラを取ってもらったり、生長を楽しみにしてもらえます。当初は不安だらけだった管理の仕事も、利用者や近所の人たちと一緒に公園を育てている…と思えるようになっていました。

再び動物園の建設 ～管理の視点を活かして～

事務所で6年を過ごして異動時期を迎えた私は、昨年、どういう訳か再びズーラシアを建設する部署に戻ってきました。

そこで気づいたのは、動物園建設に携わっていた以前の自分には、管理者としての視点やコスト感覚があまりにも欠けていたということ。現在、設計や工事監督を行う際には、子供を持つ母親としての利用者の目線を持ちつつ、これから長期間にわたる安全・快適な利用を提供するための管理の視点と、コスト縮減の視点を必ず考えるようにしています。このことは、管理業務を経験した後、再び建設に携わることができたからこそ実感できました。

これまで周囲の沢山の人々に助けられながら、様々な経験を積ませていただいたことを、今、非常に感謝しています。今後は、自分が誰かを少しでも手助けできるように努めながら、造園工事の過程を楽しむワクワクした気持ちも忘れずにいたいと思っています。

最後に、よこはま動物園ズーラシアのアフリカサバンナゾーンが25年春に一部オープンします。みなさん、ご家族で是非お越しください。

三ツ沢公園球技場（当時の陸上班メンバーと）

よこはま花と緑のスプリングフェア2012 第50回記念花壇展を開催

シンボル花壇

よこはま花と緑のスプリングフェア2012「花壇展」が当協会員20社と横浜農業協同組合にご協力いただき、4月13日から5月6日の24日間山下公園で開催された。

今年で花壇展は50回を迎え、記念の大型シンボル花壇やモニュメント、花壇展50年のあゆみのパネルの設置等、節目にふさわしい花壇展となった。

コンクール褒章授与式は4月26日に開催され、受賞者はじめ出展社が出席した。

第50回花壇展コンクール結果

横浜市長賞
横浜植木㈱
「春によせて」

横浜市長賞

公益財団法人横浜市緑の協会理事長賞
井原造園㈱
「春の碧」

神奈川新聞社賞
㈲エムテックグリーン
「a stream」

みどりアップ奨励賞
㈱笹山植木
「風と花」

花壇展第50回記念賞
㈱錦光園
「ある情景」

横浜市会議長賞
㈱大匠緑化建設
「旗印」

横浜市環境創造局長賞
㈱錦光園
「ある情景」

出展協力社（花壇番号順）
日光緑化建設㈱・㈱小林園・㈱佐藤造園・篠原造園建設㈱・㈱倉本造園・㈱日産クリエイティブサービス・㈱環境造園・㈱大匠緑化建設・横浜植木㈱・横浜農業協同組合・㈱錦光園・㈱石正造園土木・岩崎造園㈱・㈲ヨネヤマプランテイション・㈱小菅造園・㈱横浜緑化・㈲エムテックグリーン・井原造園㈱・㈱日本造園・㈱笹山植木・㈱ワールドグリーンメンテナンス

終わりの言の葉

日米桜交流100周年、1912年に日本から送った桜は今では世界的な桜の名所になっているようです。横浜市のHPでは横浜の桜の名所として市内各所の公園が紹介されており、その桜の総数はおよそ13，500本、広い公園に沢山の桜が咲いている姿は毎年人々の心を癒してくれています。近年では成長しすぎた桜の街路樹を伐採する姿を見かけますが、ここが広い公園ならば…などと少し可哀想に思えたりし、管理も植栽も先を見越した施工が必要だと改めて実感させられました。（K）

訃報

齋藤ミヨ氏（享年92歳）
㈱横浜緑化
代表取締役
齋藤 久男 氏ご母堂

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。